

是走

大

「李玄靜碑」(集字)

是走

大

為

之

牆

走

仙

朝

佛

精

遊

陽

者

勝

者

隱

有

移

物

所

將

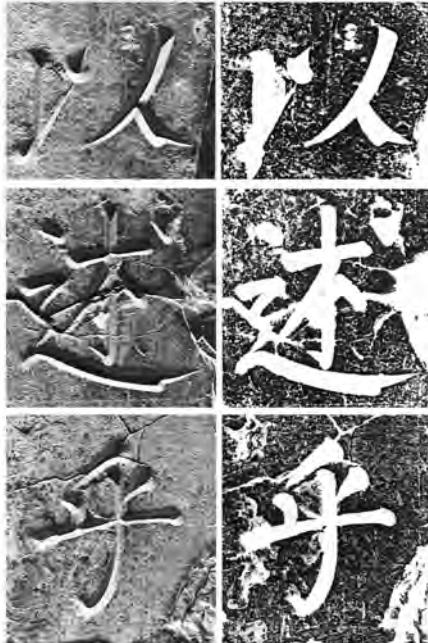
都

「顔真卿の書」⑪

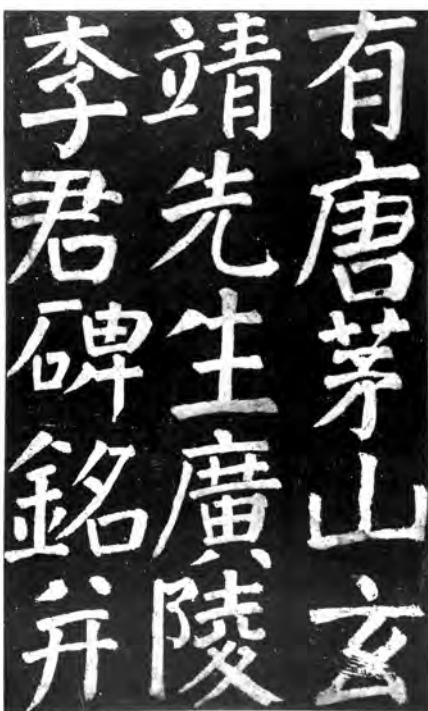
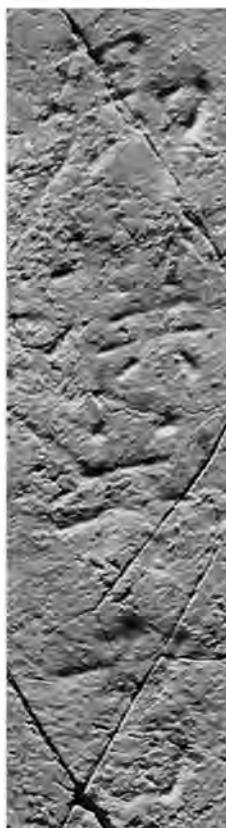
「西亭記残碑」②

唐・大歴十二年（777年）

補助図版②（碑陽の文字）



補助図版③（碑陰・碑側の文字）



補助図版④ 李玄静碑

「西亭記残碑」は、この原碑残石が出土するまでは、拓本の伝来するものもなく、碑法帖の著作にも見ることはできなかった。しかし顔真卿の文を収録した『顔魯公文集』には、「梁吳興太守柳惲西亭記」と著録され、「湖州烏程縣南水亭」から「夏也」まで、590字を集録している。今回の出土碑には、266字余を見ることができる。『顔魯公文集』の碑文と照合すると、出土碑の碑陽は、第1行目が、「湖州烏程縣令李清修」で始まり、2行目が「金紫光祿大夫」と続き、3行目が「卿撰并書」であるが、『顔魯公文集』には、この3行部分が記録されていない。1文字ごとに照合すると、「顔魯公文集」には、誤記もある。明時代に編纂された『顔魯公文集』は、おそらく原碑でなく、拓本にて集録されたのはなからうか。碑文を観察すると、碑陽の右側の文字の風化が進み、字画がやや不鮮明であるが(図②)、碑陰・碑側の文字は、それほどの碑面の摩滅はない(図③)。書風に関しては、『西亭記残碑』と同じ年に書かれた『李玄静碑』(図④)に最も近い。書風確認のために、両碑共集字した対照図版を右頁に示した。数年あとの『顔氏家廟碑』に比して伸びやかな趣を示している。伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書道芸術院 令和の群像 (2019)



弓削光峰

私は、倉敷市職員として仕事上、字を書く機会が多かったため、成人式を迎えたことを機に、少しでも字が上手になればと思い、三宅素峰先生の稽古場にご挨拶に行き入門させていただきました。その時、先生の横で先生の添削を食い入るように見ていた学生服の男子がいました。後日知るのですが、その人が小竹石雲さんでした。私は、自宅で練習した何枚かを添削していただきていきましたが、小竹さんは毎回、何十枚も添削を受けていました。おのずと自分との違いを感じざるを得ませんでした。その後、書道芸術院展・毎日書道展へ出品するようになりますが、小竹さんは毎回、東京へ

見にいこうと誘って下さり、東京都美術館で勉強後は神田の古本屋での拓本探し、玉川堂、清雅堂等での文房四宝探しをした後、帰岡するのがパターーンでした。書に対する取り組みは若い頃から私どもとは次元の違う感じでしたので、当時から彼は書道界で羽ばたくぞ、リーダーになるぞと思われていたのでしょうか。現在も何とか書道を続けられているのは小竹先生との出会いがあつたからこそで感謝、感謝です。

岡山の現代詩文書作品への取り組みは、昭和40年代に種谷扇舟先生・飯高和子先生・辻元大雲先生・笛本扇城先生達が幾度も来岡してくださいり、熱心な指導のお陰で現在

掲載の作品は第72回書道芸術院展出品作です。平成30年7月7日の西日本豪雨で通行していた道路が陥没していく車ごと転落、辛うじて脱出でき、九死に一生を得ることができた感謝を認めたものです。

の岡山の下地ができたものといえます。

種谷先生の教えは「個性を尊重・長所を伸ばす・前向きに前進するのみ」といったもので、下手くそであった私も温かい励ましの言葉を掛けてくださいました。三宅先生の「素材と表現は合致しているか、美は存在する作品か、余白の生きた作品か、高い格調はあるか、妙味はある作品か」等の教えとともに、作品作りに命がけで挑まれた両先生に指導を受けた大きな宝物を少しでも吸収できているかと自問をして反省する日々ですが、この機会にもう一度自分がしていることを見直してみたいと思います。



書のひろば

理事長 辻 元 大雲

書道芸術院秋季展・併催「書道芸術院の書」かな、篆刻・刻字、前衛」展開催

秋の企画展として40数年開催してきた「書道芸術院秋季展」は例年通りセントラルミュージアム銀座とアートサロン毎日の2会場で、10月8日～13日まで開催された。

財団役員、名誉、参与会員、審査会員より選抜された124名、審査会員候補21名から選考された秋季菊花賞10名、俊英賞40名合わせて174名の作品をセントラル会場に陳列した。

今回の新企画として財団評議員の半数10名には25平方尺の大作に挑戦していただき、理事監事は逆に半切大に縮小とした。会場内は大作から毎日展示公募サイズ、更に半切大と大きさにも変化が出、漢字から前衛書までの多彩さもあり、充実した内容となつた。

アートサロン毎日会場では昨年からの新企画「書道芸術院の書」の2弾目「かな、篆刻・刻字、前衛」展が一人2m幅、25平方尺の大作で充実。かなは4名、篆刻・刻字2名、前衛11名の出品者で毎日展示員以下の新進気鋭の作家達となつた。

12・13日に予定された表彰式・研究会・祝賀懇親会などは折りからの猛烈な台風の直撃により中止、縮小せざるを得なかつたのが残念であった。17人

は薄田東仙、前衛書は中原志軒各先生にお願いし、有意義な充実した研究会となつたことを感謝したい。(詳細は別記)



秋季展(銀座セントラルミュージアム)



17人の書(アートサロン毎日)

団構成	
団長	辻元大雲
副団長	下谷洋子
常務理事	小竹石雲・後藤大峰
団員	前田龍雲・九條純代・ 工藤永翠・大平邑峰・ 都丸みどり・小林純風
添乗員	堂本暁生(毎日旅行)
10月21日(月) 6時	ウェーブ着
通関後ホテル	午前中大使館広報文 化センターにて作品陳列

以下日程の概略報告。(詳細は次号)

27日羽田空港に帰国した。

更に来年はスロバキアと日本の友好関係樹立100周年を迎えることにもなつており、本年スロバキアでのワークショッピングにて本院友好訪欧団が出発、2月2日間に亘り開催したことでも大きな成果を生むこととなつた。

10月20日深夜、羽田空港からウェーブ直行便にて本院友好訪欧団が出発、

10月24日(木) 日中 市街観光

18時 プラチスラバにてワークショップ(一般)

10月25日(金) バスでウェーブへ移動。夕刻オーストリア日本大使館広報文化センター会場作品撤去。

10月26日(土) ウェーブ空港へ帰国便が3時間半遅れ16時前ウェーブ発、羽田空港へ

10月27日(日) 9時半頃 羽田着解散



トルナバのワークショップ

*台風19号直撃 被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

日本オーストリア友好150周年事業認定 第22回書道芸術院国際文化交流ウェーブ展盛況に開催 スロバキアでも

- 14時 ワークショップ①(一般)
- 同日 夕刻大使館担当者と夕食会
- 10月22日(火) ワークショップ②(学童)
- 10時 ワークショップ③(一般)
- 10月23日(水) バスでスロバキア・プラチスラバへ移動。スロバキア日本大使館新美大使と会見。
- 18時 トルナバにてワークショップ(一般)
- 10月24日(木) 日中 市街観光
- 18時 プラチスラバにてワークショップ(一般)
- 10月25日(金) バスでウェーブへ移動。夕刻オーストリア日本大使館広報文化センター会場作品撤去。
- 10月26日(土) ウェーブ空港へ帰国便が3時間半遅れ16時前ウェーブ発、羽田空港へ
- 10月27日(日) 9時半頃 羽田着解散

現代詩文書

(二)

高田幽玄

かな (二)

須田清子

臨書について

書の勉強に古典臨書を欠いては成り立たないのは今さら言うまでもない事です。

大陸において創造された漢字の書体の変遷と異なる書風の展開の四千年の歴史を振り返るのが臨書の旅です。

それは生命の誕生と似ています。

受精卵が分裂していき、まず魚類になり、陸に上がって爬虫類になり、哺乳類となり、ヒトになっていく。そうした遠い先祖の悠久な歩みを復習しているかのようです。私たちは生命進化のドラマを母親の胎内で一通り体験してこの世に誕生してきます。

臨書の本質は、文字の誕生からその進化の跡を辿り、私たちの遠い記憶に呼びかける旅なのです。



「海棠子のことば」

高田幽玄書

21世紀の書

—私の主張—



かな作品の創作の手順
かなには、「万葉がな」「変体がな」「平がな」「片かな」がある。「万葉がな」は「男手」とも言わされている。「草がな」からさらに簡略化された「平がな」は、「女手」とも言われた。「片かな」は漢字の一部をとり文字表現とした。それが明治33年に「平がな・片かな」が48文字に定められ現在に至っているのだ。かな作品を効果的に表現する為に、それらの種類の全てをとり込み作品を創作していくのだが、それが何とも難しい。どのような手順で創作していくのか、まず自分が書こうとする素材の選定をする。句や詩や歌の中から選

ぶ。この選んだ文字をどの様に配置していくのか、表現する紙が縦ち、急に何とも言えない恍惚感に包まれ、幸せな気持ちになりました。一瞬の出来事でしたが、それは自己という小さな存在を越えて、大きな文化の大河の一滴となつた安心感といった感情でした。

臨書は全身全霊を込めたものであります。ありたいと思っております。

特集：書道芸術院秋季展

「上野のお山から銀座へ」というキャッチフレーズで「書道芸術院秋季展」が企画実施され41年が経過した。本年度の出品内容は、財団役員66名、審査会員選抜作家58名、審査会員候補者50名が選ばれ、総計174名の作品が展示された。本年セントラルミュージアム会場は以前にもまして活力ある会場との期待から、評議員の半数10名に大作を依頼した。その代わり理事・監事を半切大に小さくした。

アートサロン毎日を会場に併催された「書道芸術院の書」かな、篆刻・刻字、前衛」は昨年の漢字に引き続いた字、前衛」は昨年の漢字に引き続いた新企画である。将来の本院を担い、今

アートサロン毎日を会場に併催された「書道芸術院の書」かな、篆刻・刻字、前衛」は昨年の漢字に引き続いた字、前衛」は昨年の漢字に引き続いた新企画である。将来の本院を担い、今

書道芸術院秋季展

会期 令和元年10月8日(火)～10月13日(日)

会場 セントラルミュージアム銀座
アートサロン毎日

併催 「書道芸術院の書」かな、篆刻・刻字、前衛」展

審査会員候補公募

秋季展実行委員長

小竹石雲

「上野のお山から銀座へ」というキャッチフレーズで「書道芸術院秋季展」が企画実施され41年が経過した。本年度の出品内容は、財団役員66名、審査会員選抜作家58名、審査会員候補者50名が選ばれ、総計174名の作品が展示された。本年セントラルミュージアム会場は以前にもまして活力ある会場との期待から、評議員の半数10名に大作を依頼した。その代わり理事・監事を半切大に小さくした。

アートサロン毎日を会場に併催された「書道芸術院の書」かな、篆刻・刻字、前衛」は昨年の漢字に引き続いた字、前衛」は昨年の漢字に引き続いた新企画である。将来の本院を担い、今

後の活躍が期待される新進気鋭の作家17名に登場してもらった。内訳は、かな4名、篆刻・刻字2名、前衛11名。

おりしも猛烈な台風19号の直撃のため、12日に予定された表彰式・研究会は参加者が極めて少なく、成り立たなくなる状況であった。夕刻から予定していた銀座東武ホテルでの出品者懇親会は、ホテル側と相談し10日の段階で中止を決定し、ご来賓はじめ余名の参加予定者へ電話連絡にてご通知申し上げた。表彰式は幹部で検討し、11月23日創立記念日講演会の前に行うことを決定した。受賞者はじめ皆様方にはご賛同の上、ご了解くださるようお願ひ申し上げます。

翌13日最終日、アートサロン毎日で17人展の研究会は外部講師3名（三宅相舟・薄田東仙・中原志軒各先生）名中7名と少なかったが、担当理事

の方々もご参加いただき、一点一点の作品についてご指導ご教示をいただきることは大変有意義で充実していました。更に先生方をお招きして神保町新世界飯店での昼食会も、賑やかで楽しく充実の一刻であった。

両展の閉会、撤去作業も無事終了しました。各担当者のご苦労に深く感謝申し上げたい。

参観者 セントラル会場が800名、アートサロン毎日会場は300名余と振るわなかつたのは土日に台風の直撃の影響と思われる。

2019年 書道芸術院秋季展公募出品集計

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	秋季俊英賞	落選
漢字	129	76	3	15	58
かな	10	9	1	1	7
現代詩文書	104	63	3	11	49
前衛書	135	69	3	13	53
篆刻・刻字	0	0	0	0	0
合計	378	217	10	40	167



セントラルミュージアムにて研究会



アートサロン毎日に講師らと

書道芸術院秋季展

会場 セントラルミュージアム銀座（紙パルプ会館）



（公財）理事長・常任総務
辻元大雲

135×35cm

〈瑞月〉



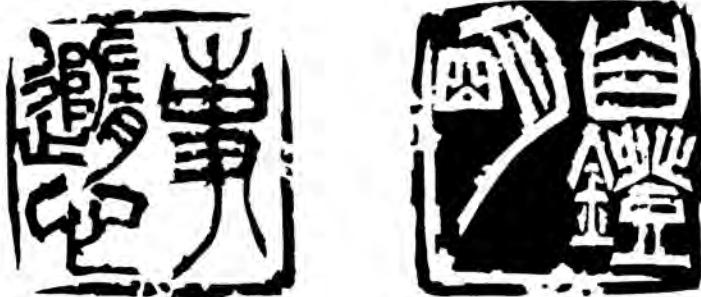
(公財) 常務理事・常任総務 小竹石雲 70×70cm

〈山谷集より〉



(公財) 常務理事・常任総務 下谷洋子

〈近作二顆〉



(公財) 常務理事・常任総務 後藤大峰 35×135cm

144×32cm

評議員大作

〈荒城の月〉



飯沼惠鳳

240×90cm

〈風露〉



飯田春香

240×90cm



〈真心〉

大石仙岳 150×150cm

〈白秋の詩〉



240×90cm



〈大象無形〉

生田翠龍 136×200cm



〈近作二顆〉

佐藤香山 115×57cm

〈趙翼詩〉

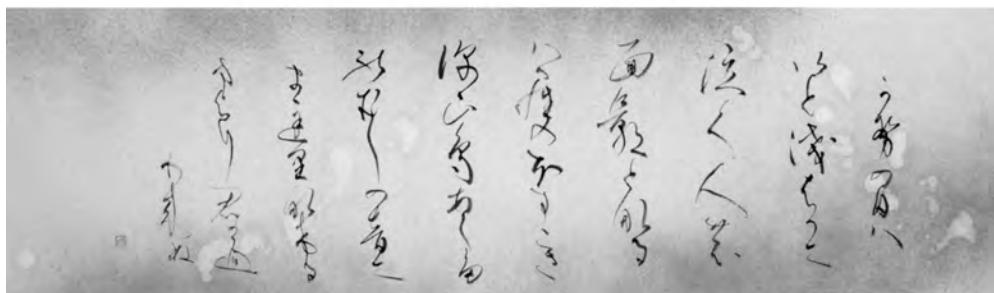
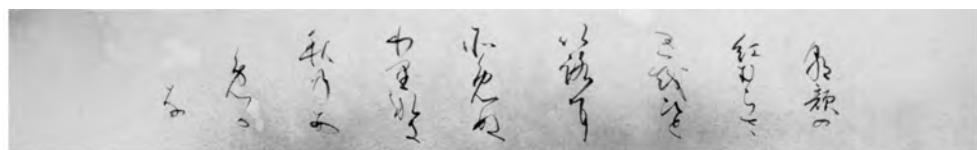


236×84cm



〈紫電改〉

田村鄭雲 166×110cm



〈朝顔の〉

木村 東舟 79.5×180cm



〈平和〉

三森慧香 110×178cm

秋季菊花賞 審査会員候補

〈馬王堆二号漢墓出土帛書〉

桐林孤无

Another Orion

奥村美楓

洲



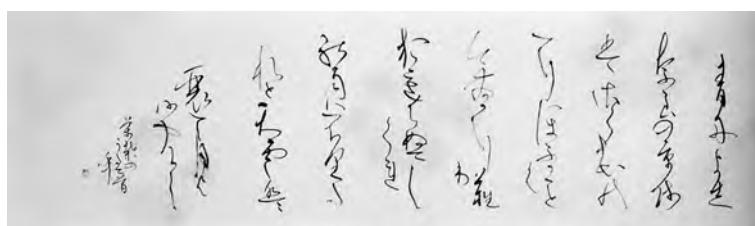
121×91cm

海



120×90cm

あをによし



鍋島弘子 53×180cm

174×55cm



178×57cm



174×55cm

〈達治の詩〉



茂木 純水 61×182cm

〈海よ〉



182×61cm

〈暁〉



182×61cm

原島 春汀

〈RYOUKAI〉



180×60cm

高橋 清琳

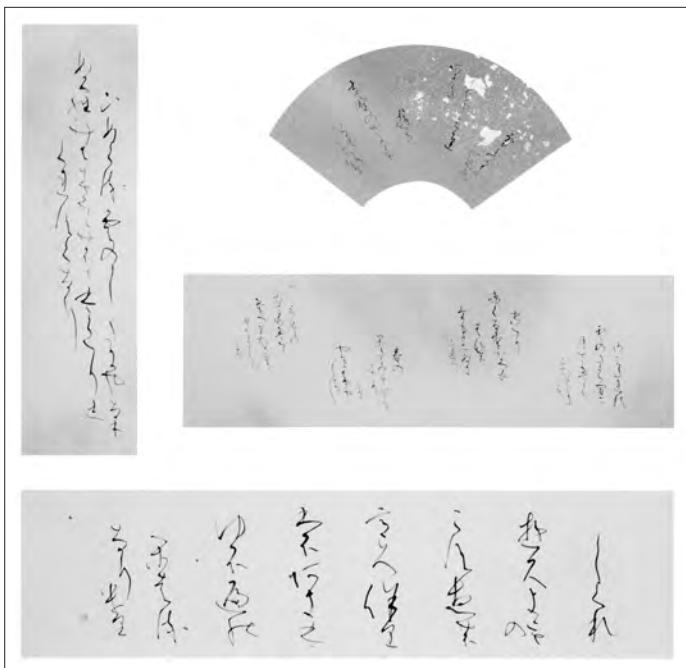
〈地線〉



152×73cm

井上 恵子

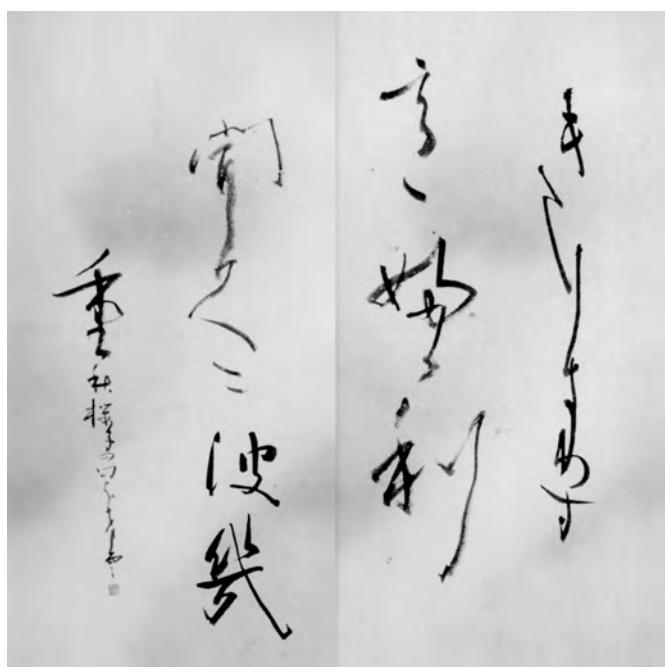
《京 絹 子》



〈雪ふかき〉

152×152cm

《佐 藤 希 雲》



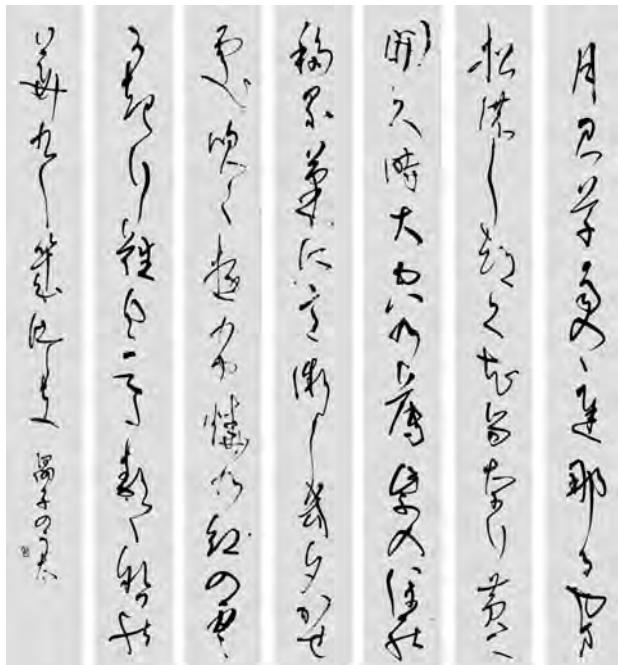
〈秋桜子の句〉

120×120cm

〈併催〉「書道芸術院の書＝かな、篆刻・刻字、前衛」展

会場 アートサロン毎日（竹橋・パレスサイドビル）

《利 村 郁 子》



〈美くしき月〉

140×112cm

♪情♪



240×90cm

《大 沼 樵 峰》



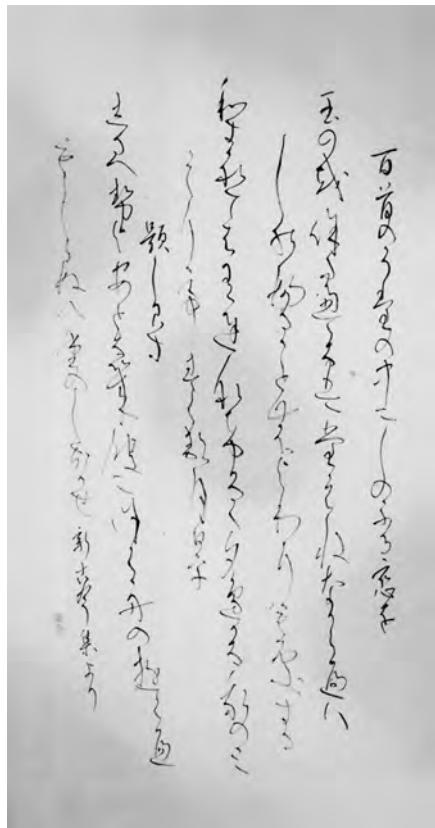
〈如聽仙樂〉

70×105cm

《門脇信子》

《治田芳江》

「しのぶる恋を」



159×86cm

《金井みどり》



〈慶〉

150×150cm

《一條紅蕭》



〈大樹〉

120×180cm

《相 内 珠 莉 》



〈阿吽〉

60×180cm×2

秋韻



《佐々木 浩子》

181×91cm

《赤 羽 蘭 径 》



〈墨場必携より〉



154×49cm×2

《塚本真仙》



〈風樹〉

79×182cm

♪
夢
♪



242×91cm

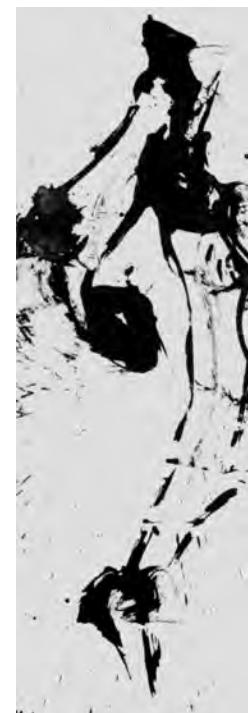
『名取雅子』

《千葉紅雪》



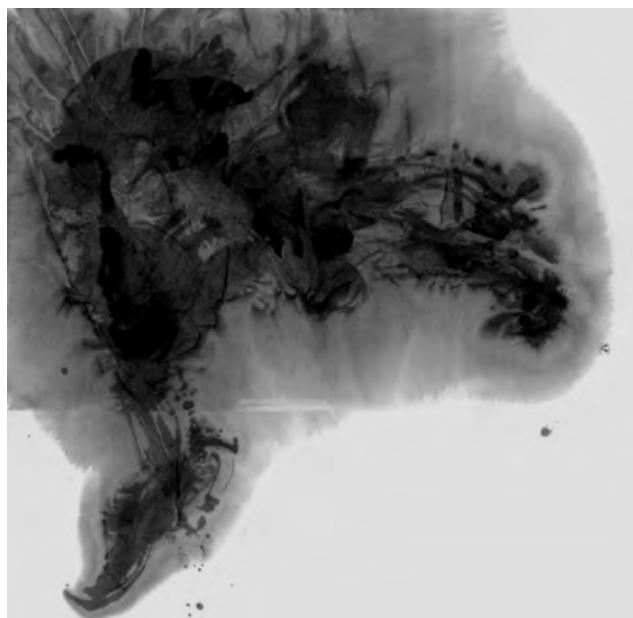
180×90cm

↑I・NO・RION
↓deep
grif



180×60cm

↑I・NO・RION
↓one step
forward



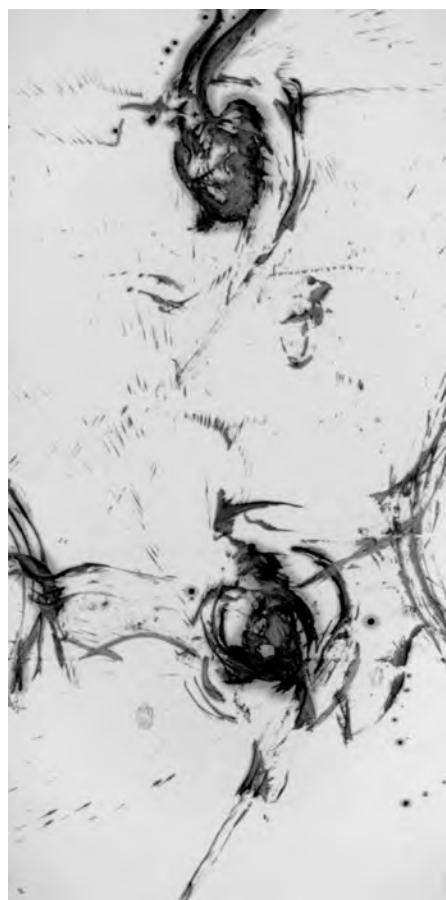
〈深海〉

148×151cm



『三木彩月』

240×90cm



『畠中成山』

180×90cm

令和元年度 新審査会員作品

花里 智子（前）・種谷 悠輝（漢）・土屋 恵仙（漢）・山内 松吾（現）



土屋 恵仙
(千葉)



花里 智子
(群馬)

「光」

この度は、審査会員に昇格させて頂き誠にありがとうございました。これもひとえにご指導下さる大井美津江先生、秀水會の皆様のおかげです。今回、初めて淡墨での小作品に挑戦してみました。余白と線の強さ、動きが表現できず苦心しました。これからも昇格に恥じぬ様精進してまいります。

（智子）

「潤水湛如藍」

「変化の中に不变の真理が宿っている」という禅語を、ここ数年取り組んでいる隸書で表現しました。

子育てが一段落した20年前の春、加瀬澄春先生に入門。先生の寛容なご指導のもと、また、先輩・書友に恵まれて継続することができました。昇格を機に、気持ちを新たに精進してまいります。恵仙



山内 松吾
(宮城)

「正岡子規の句」

常々震災と市井の人々を題材にと心がけ、今回の作品は亡き母を慕う子の心情を子規の句に重ねて書いたものです。書との出会いは亡き武山櫻光先生。今は師の志を汲んだ櫻子先生、そして伊呂波書の会の坂本素雪先生より書の在り方を学んでいます。3人の御師匠との邂逅に心から感謝しております。

（松吾）



種谷 悠輝
(千葉)

「敢為邁往」

この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございました。「敢為邁往」この言葉のように、色々な壁にぶつかった時も、前向きな気持ちで思って進んでいきたいと思っております。今後とも一層努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

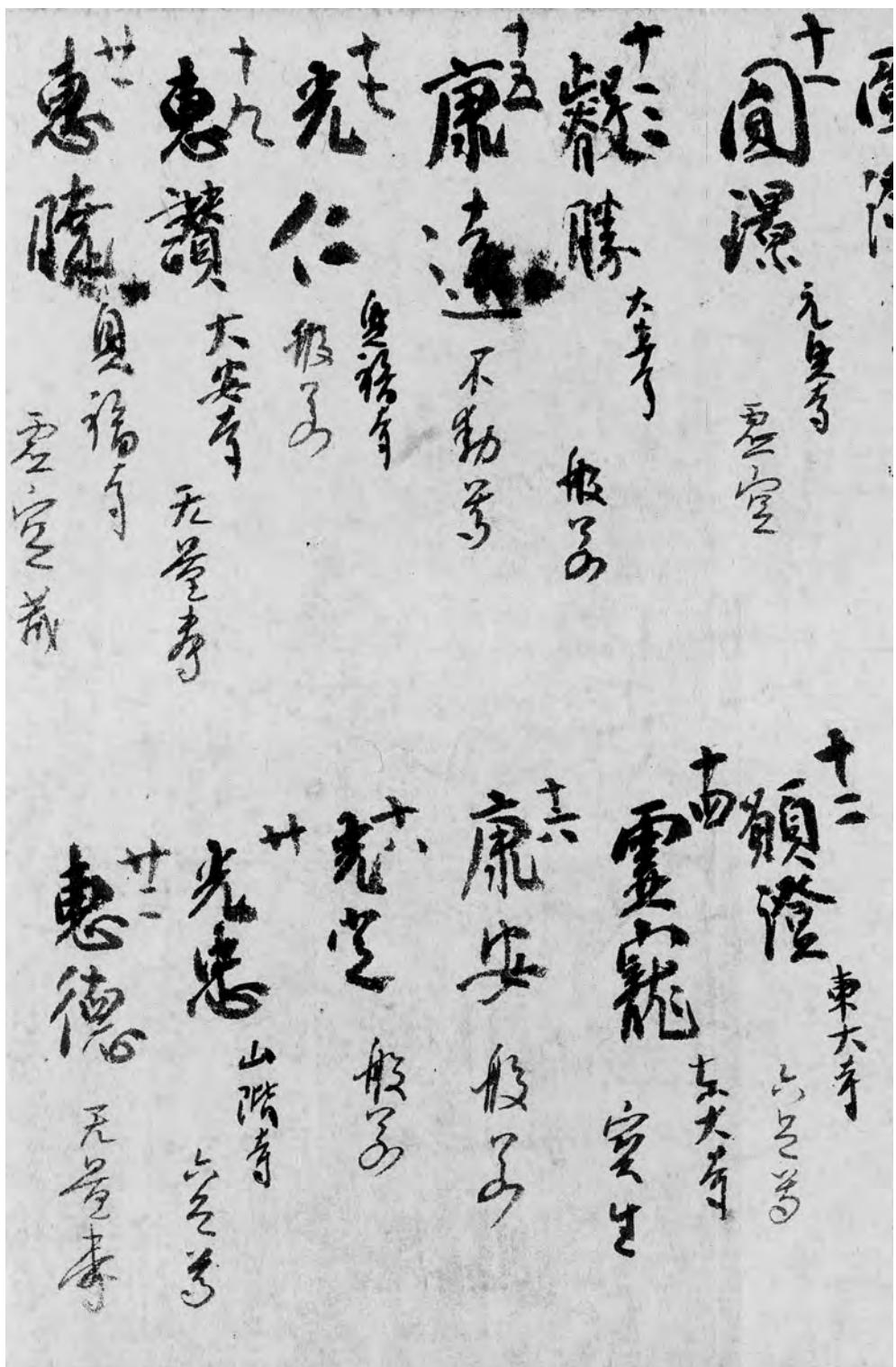
（悠輝）

灌頂歴名

(平安) 空海 ②

廿一 惠曉
奥福寺
虚空藏廿二 惠德
无量寿
六足尊

（解説）灌頂歴名は手控えであるため、卒意の書（あらかじめ用意をせず、意のままに書かれたもの）として、特別の味わいが感じられる。僧侶名は筆力が充実し、重厚・豊潤な線質で書かれ、右側・下方に重心を置き、安定感のあるどっしりとした字形が多い。名の下には、所属の寺院名と得仏の結縁尊名が軽妙な筆致の細字で書かれている。草書体を混ぜ、簡略化された曲線を主体としている。各所にうかがえる重厚と軽妙の混在から空海が王羲之や顏真卿等を学んだことが強く感じられる書である。



(神護寺蔵)

(掲載図版73%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

(編集部)

漢字研究部臨書課題 = (半紙普通判・縦使用) 上記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 = (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

古筆鑑賞

188

曼殊院本古今和歌集

(伝藤原行成)②

〈よみ〉

東支
としゆきの朝臣
多萬堂
たまだれのこがめは
いづこゝゆるぎのいそ
能奈身
のなみわけおきに
い移豆
でにけり
尔希利
那爾那
ばなりなむ

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

〈解説〉

曼殊院本古今和歌集は、京都の曼殊院に伝來した『古今和歌集』卷第十七の零巻である。

書写形式は、歌の作者の氏名または名は書かれているが、詞書は省略されている。行書きで歌一首行頭をそろえ、4行書きされている。

字形は整齊で、筆線は清澄にして鋭い。はじめは太く濃く書かれているが、やがて細く薄くなり、絹糸のように繊細である。長く統く連綿は氣品に富んでいる。

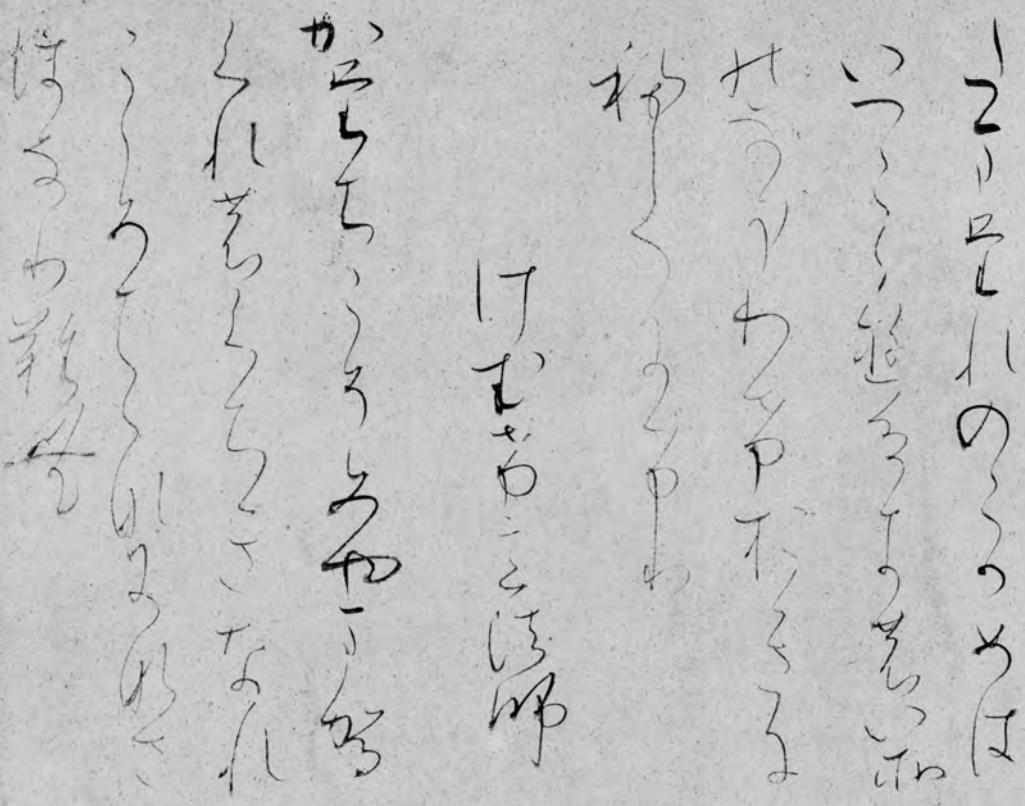
筆者は藤原行成(972~1028)と伝えられるが、その自筆と比べて書風が異なり、行成よりさらに下つて11世紀後半ごろの筆と考えられている。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましよう。

※掲載図版は83%縮小

※先月号の「個人蔵」は誤まりでした。正しくは「曼殊院蔵」です。訂正しお詫びいたします。



(曼殊院蔵)

特別研究部
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

かな研究部
臨書課題

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

宇宙洪荒
(千字文)



参考作品

濃墨、羊毛であまりくどくならないように心がけた。“往来古今を宙、上下左右を宇と謂ふ”となり、“宇”とは空間、“宙”は時間のこと。洪、荒はどちらも大きい広がるという意味である。AIN SHINTAINEHは、時間と空間は分けられないもので“时空”としたが、中国でも古来より時間と空間を認識していたのかも知れない。

参考に鐘繇風の楷書を載せたが、字形は古くなれば現代の字と違い真四角に近くなる。

宇宙洪荒 よみ(宇宙洪荒)

書体=自由



習い方解説 (二)

坂本素雪

琴酒相壽
(琴酒相壽ぐ)

一度分かったつもりでも、心技が上達すれば見えてくる物も変わります。何度も繰り返して字形を頭の中に入れる事が大事です。今月の課題は、どの文字もある程度画数もあり、全体的には収めやすいかと思います。

「琴」= 琴を右肩上がりに書き「今」をくい込ませるようにして

一体化して下さい。

「酒」=酉を曲げない時は酉が3本になります。

「相」=偏と旁の大きさに気を付けてバランスをとって下さい。

「寿」=五體字類などを引いてみると様々に書かれていますので、色々な書き方を覚えておきましょう。



書体=楷書

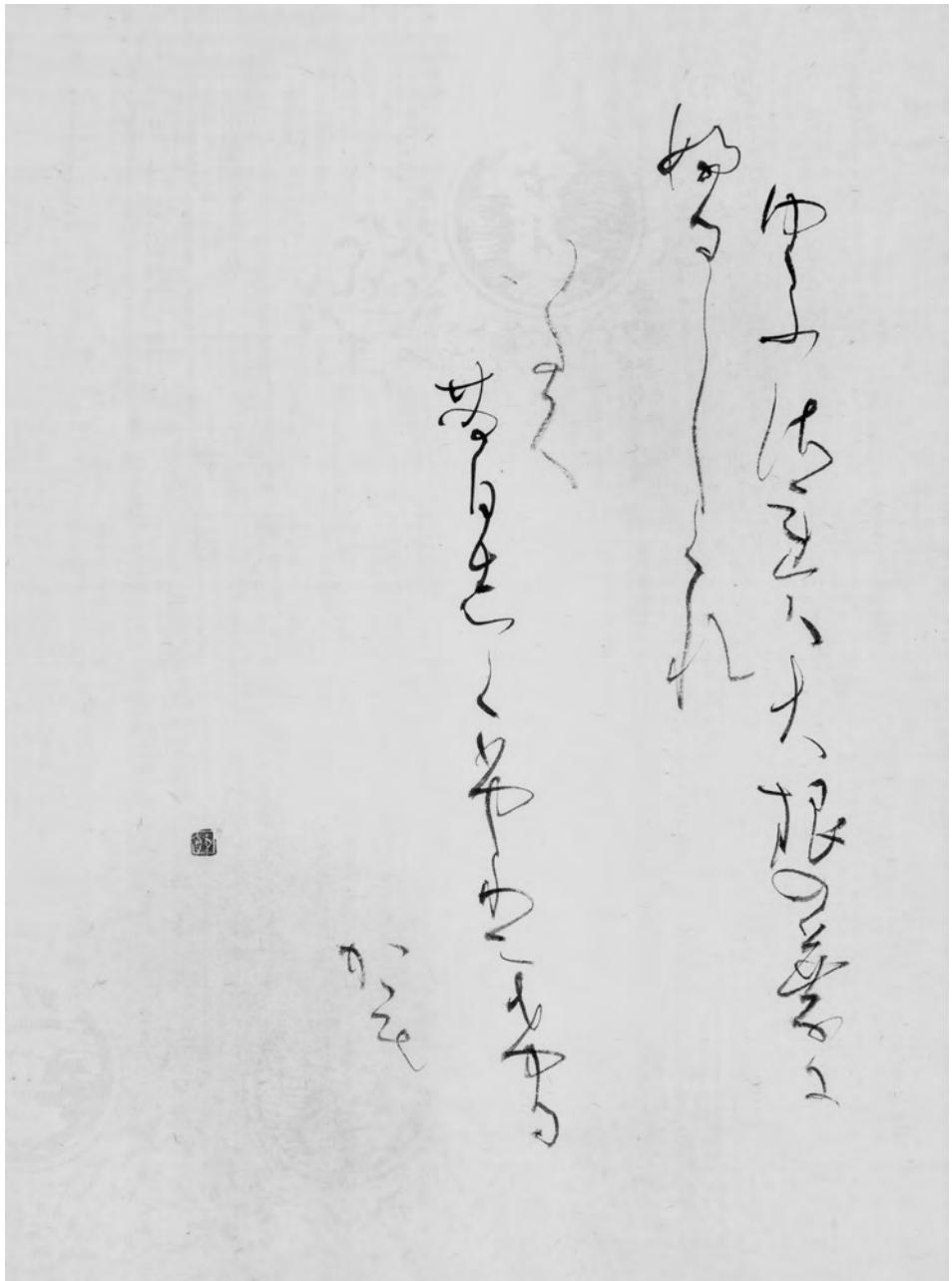
琴酒相壽 よみ (琴酒相壽ぐ)

習い方解説 (二)

鈴木せつ子

ゆふされば大根の葉にふる時雨
いたく寂しく降りにけるかも

(斎藤茂吉)



今日は、右側に行を寄せ一つの集団として、左側の余白との調和を目指した散らし書きにしました。書の上達の秘訣とは、練習ということだけで、練習を重ねることで疑問が起り、これを研究する修練がなければ上達もなく、見る目も出来ません。修練が厳しい程自己の書くものを見る目も厳しくなります。「多く練習し修練を重ねることこそが、学書の最大の条件である」と、書物がありました。

斎藤茂吉は、伊藤左千夫の門下であり、大正から昭和前期にかけてのアララギの中心的な歌人で、精神科医でもありました。次男は随筆家で小説家の「どくとるマンボー」こと北杜夫です。

よみ方

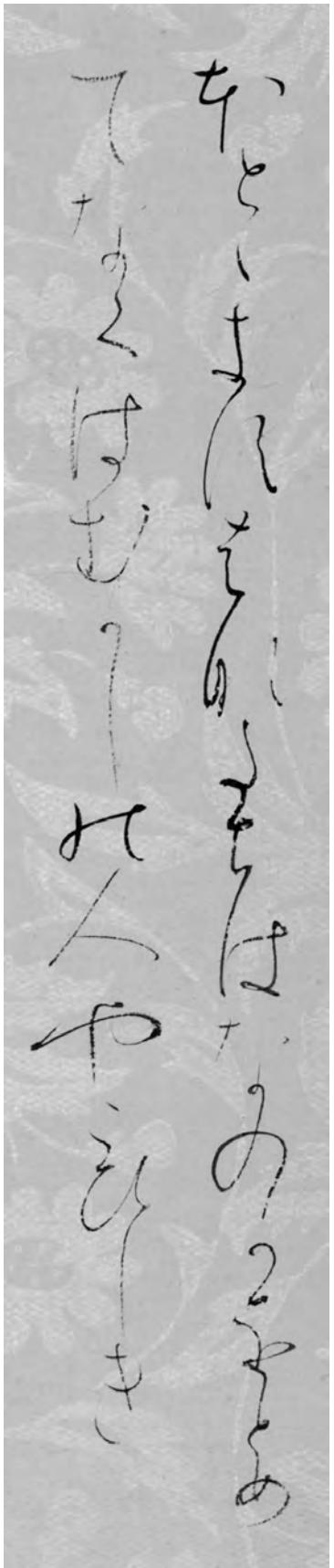
ゆふさ(佐)れ(連)ば(八)大根の葉に(尔)ふ(婦)る時雨(し久れ)
いた(多)く(久)さ(散)び(日)し(志)く(久)降(布)り(利)に(一)け(希)るかも(毛)

創作

かな規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 ほ(本)とゝぎ(支)す(須)は者)な(那)た(多)ちばなのか(可)をとめ
てなく(久)はむか(可)しの(能)人やこひしき

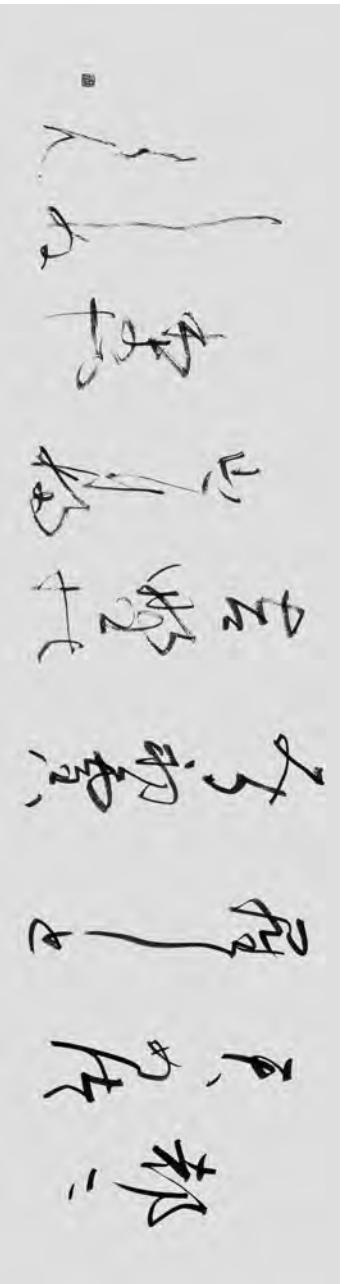
習い方解説 (二)

佐藤 希雲

佐藤 希雲 選書

都にてめづらしと見る初雪は
吉野の山にてふりやしぬらむ
(「拾遺集」源景明)

かな条幅規定【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)



創作



よみ方
よみ方
都に(一)て(天)めづ(徒)ら(羅)しと見(み)る初雪は(八)
吉野の(能)山に(耳)ふ(婦)り(梨)やしぬらむ(无)

出品券
貼付位置

* 円形に限る

行頭の位置を意識して変えてみましたが、いかがでしょうか。紙面の中央のあたりに漢字を集めてみました。いろいろと工夫してみて下さい。

漢字条幅規定 初段以上【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (二)

辻元大雲



高鳥過時秋色動
（高鳥過ぎる時秋色動き）
征帆落暮雲平
（征帆落ちる処暮雲平らかなり）
(趙頤)

書体=自由



書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

崎井恵風選書

習い方解説 (二)

崎井恵風

砧にきぬた一衣の艶を出す為に、
のせて打つ石の台。きぬたの音と
笛の音のコラボ。夜更けの音色に
心惹かれてながら、今月も「争座位
稿」の丸みを帯びた力強さを参考
に書きました。筆力・気力共に充
実させて、顔真卿の書法に挑戦し
てください。

今回も七言一句、行書をベース
に草書も少し取り入れております。
若干連綿もあり、リズミカルな雰
囲気も感じられます。
筆はやや硬めの中長鋒を使用、
骨力のある表現を意図しております。
書体、書風の違いによる多様
さを支える大きな要素に、用具用
材の選択があります。あまり贅沢
はいえませんが、なるべく偏らず
幅広く選びましょう。

* タテ形式に限る

霜砧月笛
(劉兼詩)

山田梓江

なぜ「小倉百人一首」と呼ばれるのかといふと、撰者の藤原定家の別荘が京都の小倉山にあつたことによ来します。梓江書

和歌文化は奈良時代から平安時代にかけて盛んになりました。平安末期から鎌倉初期の時代は和歌を百首詠んだり撰んだりするのが流行し、そして、紙にしたためたようです。そのようにして多くの百人一首が生まれましたが、現在百人一首と言えば小倉百人一首を指します。

昭和前期生まれの子供たちは、正月には「かるた遊び」をしたものですが、それも今は昔の話となりました。

考えてみれば私も子供でしたので、かるたが小倉百人一首ということも、多くが恋愛の歌ということも知らずに、札を多く取るのが目的で上の句(絵札)と下の句(ひらかな)で書かれた和歌を意味も解らずに暗記していましたが、古典独特の遊びで面白いですね。

10月号楷書で手本を書くのに苦労をしたので、もう一回楷書に挑戦します。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

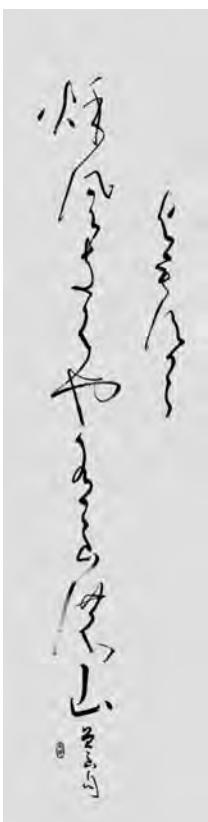
ホープ作品 各部総評

NO. 701

ペン字部 師範 加瀬 恵子
運筆緩やかに細部迄沈着したり
ズムが流れる。余白も美しくペン
先の力加減を見事に表現された。
◎ペン字部総評 上級者は行書が
多く連続のリズムも自然体であつ
た。基本形の楷書にも挑戦し自身
の研鑽を期待。 (雪枝評)

子供がからつたあとからは
あるいは大きくなお月さま
小鳥が夢を見るのこうは
空にはきらきら金の星
唱歌「夕焼け小焼け」恵子書

かな条幅部 師範 齋藤 杏邑
曾良の句への理解が深く、相応
しい景色が展開されている。書き
すぎない文字と山での墨継ぎ美事。
◎かな条幅部総評 誤字少なく概
ね上出来。墨量过多で紙面を汚く
したもの散見で残念。又、洗練さ
れた字形を研究のこと。(明子評)



現代詩文書部 特選 鶯山 美梢

素直でホッとするような作。單
調そうに見える作品は実は大変難
しい。それを見事に表現された。
◎現代詩文書部総評 創作は創意
工夫が必要。文字を並べただけの
作品が多く残念である。(梓江評)

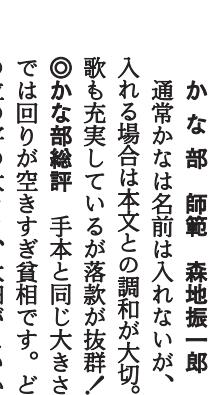


前衛書部 特選 平田 悅子

墨色七変化。墨が醸し出す優し
さ・柔らかさが心地よい。淡墨の
効果を上手に活用した作。
◎前衛書部総評 自己の思いを線
に託した作が多く見られ嬉しい。
の調子で前進を。 (蓮紅評)



かな部 師範 森地振一郎
通常かなは名前は入れないが、
入れる場合は本文との調和が大切。
歌も充実しているが落款が抜群/
位の字の大きさ、太細がよいか
拡大してつかむこと。(洋子評)
◎かな部総評 手本と同じ大きさ
では回りが空きすぎ貧相です。ど
うも位の字の大きさ、太細がよいか
拡大してつかむこと。(洋子評)



かな部 師範 森地振一郎

筆使い、線質表現が出来ていない
筆使い、筆表現作多かったが、基本的な
筆使い、筆表現作多かったが、骨力あ
る作。運筆のリズムも適度の渴筆
を交じえるバランスよい作。
◎漢字部総評 上級参考例の金文
篆書表現作多かったが、筆使い、
筆使い、筆表現が出来ていない
筆使い、筆表現作多かったが、骨力あ
る作。運筆のリズムも適度の渴筆
を交じえるバランスよい作。

◎漢字条幅部 師範 草刈 真華
切れ味爽やかな、明るくリズム
感溢れる作。行間の余白のバラン
スもよく安定感ある作。



漢字条幅部 師範 草刈 真華

◎漢字条幅部総評 上級横形式は
不慣れな方が多く、更なる鍛錬を
望みたい。下級同様書体書風の異
なる表現の研究を。 (大雲評)



漢字部 師範 加藤 雅芳

金文表現をよくとらえ、骨力あ
る作。運筆のリズムも適度の渴筆
を交じえるバランスよい作。
◎漢字部総評 上級参考例の金文
篆書表現作多かったが、筆使い、
筆使い、筆表現が出来ていない
筆使い、筆表現作多かったが、骨力あ
る作。運筆のリズムも適度の渴筆
を交じえるバランスよい作。

◎漢字部総評 上級参考例の金文
篆書表現作多かったが、筆使い、
筆使い、筆表現が出来ていない
筆使い、筆表現作多かったが、骨力あ
る作。運筆のリズムも適度の渴筆
を交じえるバランスよい作。

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 種谷萬城 白石和楓 木村東舟 倉林紅瑤

現代詩文書

(大雲) 長島懶雨 「芦田淳の詩」



144×66cm

長島懶雨書

◆縦2行のバランスと潤渴の表現がマッチし、氣字大で余裕のある安定作。漢字・かなとの調和が美しい。

(和楓評)

◆鍊度の高い筆法から生まれた線が上質で魅力がある。字形は安定して美しい。完成度の高い作品。

(萬城評)

◆柔軟な彈力ある線条がすばらしい。全紙に縦2行の紙面構成。暢達した書風、懷の広い大らかな表現に好感。

(紅瑤評)

◆雄大かつ大胆に2行書きの詩。潤渴・濃淡・大小等、よく駆使された筆使いに魅力を感じる。

(東舟評)

臨書

(紅瑤)

金井みどり 「顔氏家廟碑」

175×56cm

金井みどり臨

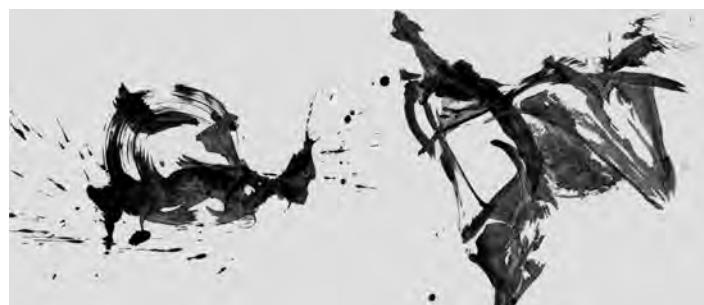
◆蚕頭燕尾による重厚な線。蚕頭燕尾の特徴を捉え、着実で真摯な臨書の姿勢に好感が持てます。

(萬城評)

◆蚕頭燕尾の書法を見事に習得し、尾の特徴を捉え、着実で真摯な臨書の姿勢に好感が持てます。

(東舟評)

前衛書 (蓮紅) 浅野彩紅「響」



60×137cm

浅野彩紅書

◆左右の対比が巧妙。直と曲、静と動、潤と渴。左右の距離感とバランスも絶妙で見事。

(紅瑤評)

◆凝縮された二つの集団。鍛錬された右部の直線美に左部の曲線美との融合が爽やかで、墨色の妙味が見事に調和。

(和楓評)

◆墨色に妙味ある作。斬新な筆使いで飛沫による左右の墨塊の呼応が楽しい。創作過程を覗き見たい。

(東舟評)

◆原帖の特徴を忠実に見事に表現している。蚕頭を存分に發揮し、重厚で力強い作品で魅力的。

(和楓評)

◆濃墨の重量感ある筆致が魅力。原碑の「蚕頭燕尾」を忠実に捉えた。常に古典に真摯に向き合って、着実的確な臨書態度は立派。

(紅瑤評)

◆独特な滲みのない墨の凝縮。左右の集団が響き合い、余白も美しく空間処理が巧み。

(紅瑤評)

漢字研究部
(顏氏家廟碑)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



中村舜水



白清ま和玉真
加杜耀き江葉弓

理照恵喜琢侑
代惠子美美翠美

翠紅美正永美
玉霞梢子簞翠

明悦良紅雅
美子章雨芳

漢字研究部 特選 中村舜水
特徴を捉え、筆圧を加えながら、力強さと伸びやかさを堂々と表現できました。特に、「之」の燕尾の払いには、これから成長や可能性を感じます。画数の多い文字と少ない文字のまとめ方が見事です。

◎漢字研究部総評

点やはねに特徴があり、蚕頭燕尾をしっかりとマスターすると「ハマってしまって」と、練習

に余念のない若者たち。粘り強さや重厚さが、おのずと身につくことを思えば、顔法の修得は不可欠です。
用具用材の質を試しながら、練習量を増やすことで解決できることは多いのではないでしようか。線の太細を、もっと大胆に表現してみると面白さも倍増しそうです。

かな研究部
(本阿弥切)

選評 庄 司 紅 郎

今月のホープ作品



坂 本 里 美

◎かな研究部總評
文字構成が通常の流れをみ出した部分の理解が
難しかった様です。「なれば」や「風」の文字を
やかに表現するのに苦労が見られました。



サ 寿 葵
チ 美
子 子 郷

絢 翠 洋
水 光 子

和 美 咲
子 紀 哉

幹 佳 春
生 恵 華

大堺誠千椿菊大雲和葉翠月阪秀		高大一も高蒼たも遼潮八白蘭紅玉宗誠水清高書う桜澄惹	う桜澄惹	坂 本 里 美
磯石石安新天作	貝田崎川藤井羽美多喜	小早岡山込浜新林齋井大市田青茂新飯境木庄飯苗宇坂	特選	本阿弥切の美しい行の流れと連綿をリズミカルに表現。ダイナミックな文字のからみ合いも絶妙に捉え、心の動きをたたみかけて素晴らしい。
清悦甘晴代惠意	耀子雨洞子	峰林坂部岸山野井 藤ノ木川畑木木谷泉野暮司高代田川	美真	◎かな研究部總評
高陵佳	昌	美口サ寿チ美莫	サ寿	文字構成が通常の流れをみ出した部分の理解が
會木作	吉山守本松堀深廣平原早長橋丹武闘春須新猿驚齋後草木北川川小尾大鶴入寺	草雲春阪月瑠原せ松陵真書露瑠春か雲春葵雲る崎島鼎游	坂 本 里 美	難しかった様です。「なれば」や「風」の文字を
勇介	久志百	田友吉本切澤地山島坂谷本羽井口原田行渡山藤蘿刈村本崎寺	内	やかに表現するのに苦労が見られました。
光文筆入	東八墨高澄華上大有澄東白水上大千堺伯宣崎春仙泉阪秋春向露海泉阪葉	櫻英や蒼大黎墨文若大樹澄大白た澄春舞沼高松村	花岩高松村	表
浅青青遷	山村真松增前本細福深島野根中中戸利寺鶴辻田田竹高高島島佐櫻斎齋後小小熊工金葛加小江梅植伊石飯青藍	櫻草泉鼎月水美峰ま原阪明花筆葉坂原春阪驚か	紅	特選
川木木みな知松江子月	本上庭浦田川多川田堀山口岸村西村守原田中玉内橋橋田々田藤藤田藤林口谷藤岡瀬野口津田藤崎島木澤佳	木	かな研究部成績表	かな研究部
富春汀貴	明正八八松大富蘭高芳京た大竜附生伏東梓土大琇こ華旭青白黎明蒼正梅黎中渡附高高た	澄竜澄八華日有こ涇黎	坂 本 里 美	特選
菅下嶋島柴篠七鹿佐佐櫻坂酒齊近小高吳國北岸菅川河加加加小乙小小岡岡大大大木瀬梅梅宇岩今井井板石石五安熱	雲泉中大華向江氣雲韻こ祥老蓮驚明漢書華桃明川辺中井真か	春泉春街祥新秋だ和明	花岩高松村	花岩高松村
昌代祐洋裕志陽芳龍弥知江松晃玄豊琴春民靜茱一和順翠雅晴朱智愛和紀麻一唯竹淳枝和久蕙楠祥貴玉芝青嘉洋佳裕琴子	由田田條田藤木田倉井藤藤林武峰又野元崎合納藤藤蘿野瀬田澤村田西鳩島沢石田山木井瀬村野上垣橋川十藤田	元	坂 本 里 美	坂 本 里 美
芳京明秀竹蓮華幸無黎や華椿高如春大石幕千長A生椿選蘭橋額美紅仙扇門明ま仙翠月汀雪習張葉月I大翠	長上蘭玉青白北澄水一天月泉鼎松蓮珠原春堅韋章	小大もた立生有天旭澄甲上玉宮墨土正	花岩高松村	花岩高松村
渡吉吉横遊山山山柳安矢武宮三松松増堀藤平隙原早林長沼西仁浪永中中中豊富戸樋千田武田高高高関鉈鈴杉杉名遷田田川山本中中口瀬鷲口藤浦丸島重田江本山尾澤部谷田山木川井村江鳩原部泉田村山口橋橋藤木田	登かか川	み	坂 本 里 美	坂 本 里 美
信佑鶴幸蘭紅美梅清和律奈砂登房津道愛翠翠佳幸喜つは典雅千奎葵光秋悦一星よ	扇藤白雪春花代真幸松代昌節祥幸溪子子舟雅楳香玉子子津子江枝枝子石舟景子泉恵子る子朗子峰心龍堂花子琴子子勝水風室香源子薰苑美子子恵子風子	み	坂 本 里 美	坂 本 里 美